

かざ

ぐるま

# 風車

紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌【かざぐるま】

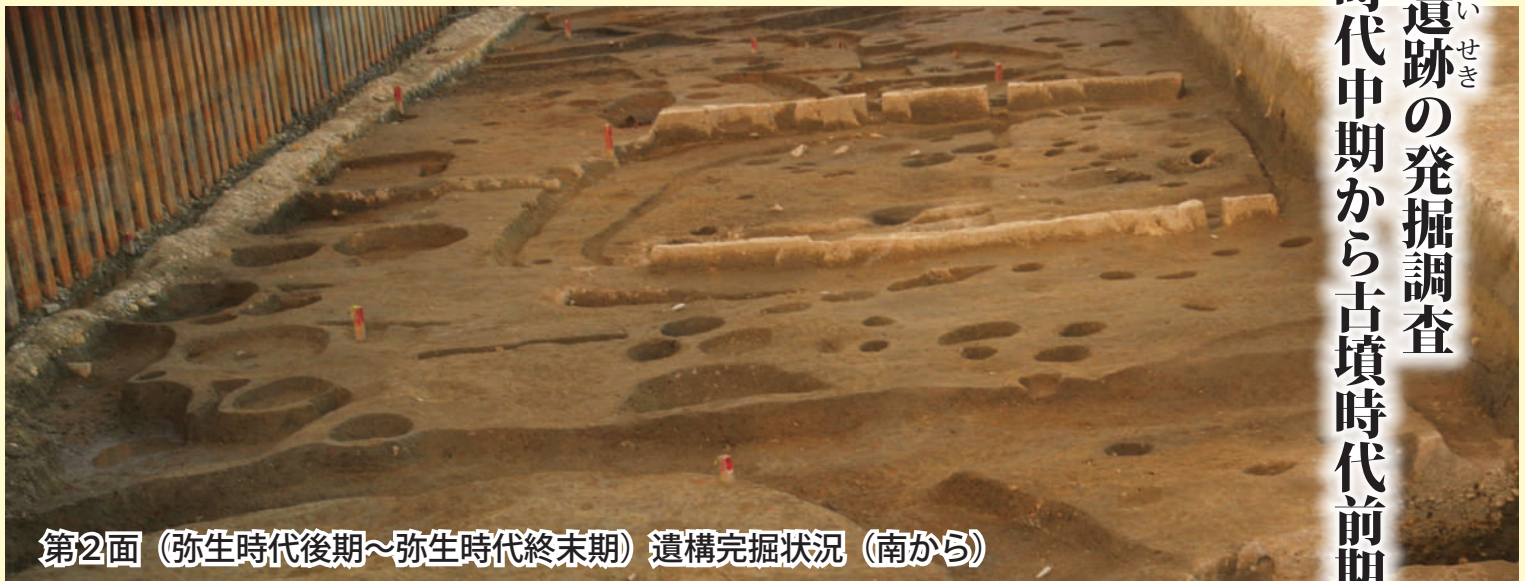
2024 冬号

# 107

公益財団法人 和歌山県文化財センター



第1面 (弥生時代終末期～古墳時代前期) 遺構完掘状況 (北東から)



第2面 (弥生時代後期～弥生時代終末期) 遺構完掘状況 (南から)



第3面 (弥生時代中期～後期) 遺構完掘状況 (東から)

特集

新宮市・

八反田遺跡

の発掘調査

紀南の弥生時代中期から古墳時代前期の集落を掘る

はつたんだいせき



## 特集

# 新宮市・八反田遺跡の発掘調査

## 「紀南の弥生時代中期から古墳時代前期の集落を掘る」

### 八反田遺跡について

新宮市佐野・木ノ川に所在する八反田遺跡は、弥生時代の遺跡として知られています。

那智勝浦町との境界に近い、太平洋に面した海岸砂丘から後背湿地にかけて立地し、現在の新宮港まで約1kmの位置にあり、北側には同じ立地に佐野遺跡があります。

佐野川と木ノ川が合流する三角州状の地形上にある八反田遺跡では、弥生時代中期から



写真1 竪穴建物（西から）  
（八反田遺跡 1991年調査）



写真2 不明遺構（東から）  
（八反田遺跡 1991年調査）

古墳時代前期の土器が出土しています。同じように、佐野川による沖積平野上の佐野川と荒木川の合流地点にある佐野遺跡でも、弥生時代から古墳時代にかけての遺構や遺物が発見されています。

### 過去の調査事例

平成3年（1991）に実施された佐野川改修に伴う発掘調査（注1）では、弥生時代

後期末の竪穴建物3棟、土坑9基、ピット、自然流路やその肩部で検出された不明遺構などが確認されました。

竪穴建物（写真1）は、一辺約4.2mの平面形が隅丸方形の建物で、複数ある周壁溝から少なくとも床の拡張を含む建て替えが2回行われたことが分かっています。遺物は弥生時代後期末頃の壺・甕・器台・高坏などが見つかっています。

不明遺構（写真2）は、砂丘の縁辺部の流路肩部付近で、長さ約90cmの板材1枚と長さ65cmと50cmの板材2枚を平行に立てて杭で固定し、周囲に約50本の杭を打ち込んだものです。板で囲まれた内部には流木や木の葉・木の実の混

じった土が堆積していました。出土遺物から弥生時代後期頃のものと思われるものと推測されます。木の実に使われた遺構かもし



写真3 土師器甕口縁部  
（伊勢湾沿岸部からの搬入土器）  
（八反田遺跡 2023年調査）

れません。

八反田遺跡でこれまで出土した弥生時代から古墳時代にかけての土器には、県北部や河内、東海地方、近江系の甕、伊勢湾沿岸で出土するS字状口縁をもつ甕などの搬入土器と思われるものがあり、東と西との交流が活発であった地域だと考えられます。

## 発掘調査支援業務について

今回の発掘調査は、新宮市の行う市道比奈久保線交差点改良工事に伴うもので、令和5年（2023）に新宮市教育委員会が実施しました。その発掘調査支援業務として、（公財）和歌山県文化財センターが測量や図面の作成などの技術的な支援をしました。

発掘調査では、古い時代の人間の生活の痕跡（遺構）がある土（遺構面）まで、時には重機で、最後は遺構を保護するため人力で掘り下げて、遺構を探していきます。遺構が見つかったらその埋土（土層）がわかるように、遺構の半分を掘ったり溝などでは畦を残して掘ったりして、遺構の埋土を観察します。そして、遺構や土層の図面、写真の記録をとります。記録をとって測量した後は、完掘して各遺構や調査区全体の完掘状況の写真撮影をします。

発掘調査には、遺構などを掘削する人だけでなく、測量や図面作成、写真撮影をする人が必要です。今回の八反田遺跡発掘調査では、当センターがそうした図面作成や写真撮影といった技術的な支援をしました。

## 調査の概要

今回の調査地は遺跡の北部にあたり、調査前の現況は耕作地でした。調査では、竪穴建物や柱穴、土坑、溝、落込みなどの遺構が確認された遺構面が3面ありました。第1面は南北側が標高4.5～4.7mで、中央部に竪穴建物や柱穴などが多くありました。また、第1面では、調査区全体に南

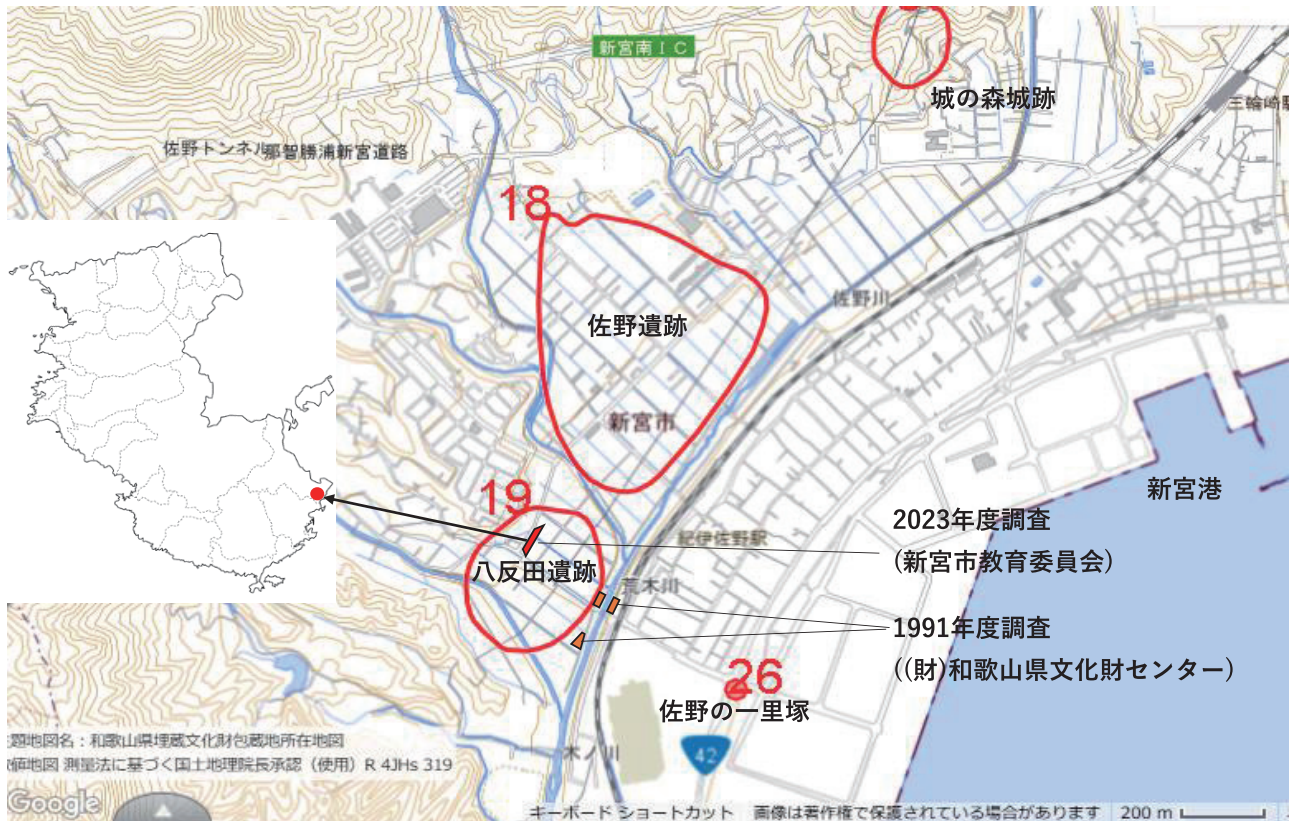


図1 八反田遺跡（19）と周辺遺跡地図

出典：和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図（遺跡番号は和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図による）





写真4 ↑ 竪穴建物 197 (西から)  
竪穴建物 197 内土器検出→  
(八反田遺跡 2023 年調査)

北方向と東西方向の複数の溝が確認され、溝に沿って杭列が打設されていました。  
第1面の竪穴建物197(写真4)は、一辺5.0mの平面形が隅丸方形の建物で、調査区中央部の高まりの上で確認しました。壁を立てる周壁溝が平行に2条回ることから建て替えが行なわれたと思われます。土層断面から内側の周壁溝が古く、外



側のものが新しく、外側に拡張された建物であると思われる。

この竪穴建物には、床面から出土する土器群以外に、厚さ10cmほど堆積した土の中から出土する多くの土器がありました。このことから、建物として利用しなくなつてから、床のくぼみに多くの土器や石器などを捨てた廃棄遺構になつたと考えられます。

出土遺物には、台石や擦石などの石製品も多く見つかりました。なかでも、朱(水銀朱)



写真6 朱付き石杵  
竪穴建物 197 出土



写真5 弥生土器壺口縁部(弥生時代後期末)  
竪穴建物 197 出土

のついた石杵があり、朱を石杵で磨りつぶして滑らかにする作業工程の際に付着したものとされます(写真6)。



写真7 竪穴建物 199 と柱穴 (西から)

竪穴建物199(写真7)は、調査区西側で確認した、一辺3.1mの、平面形が方形の建物と思われます、半分ほどが調査区外に続いていた。直径50cm、深さ22~35cmの柱穴が3基、一辺に沿うように確認されました。



第2面では、調査区中央部で炭化物を多く含む大きな土坑を発見しました。東西方向の



写真8 弥生土器甕（弥生時代後期）  
北側の落込み出土

長さ4 m以上の楕円形ですが、その性格はわかっています。その土坑の周辺に、直径1 m以上の土坑がみつかっています。また、直径15～30 cmの遺構も多くみつき、掘立柱建物を構成する柱穴の可能性があります。最終面である第3面でも、中央部が標高4.4～4.5 mと高く、調査区の南側と北側に自然の落込みがあり、南北が標高4.0～4.2 mと低くなっていました。このふたつの落込みから、弥生時代中期末から古墳時代初頭の土器が多量に出土しました。弥生時代から古墳時代に移っていく時代の土器、弥生土器から土師器へ変わっていく土器の特徴がよくわかります（写真5・8・9）。

## まとめ

今回の調査では、方形の竪穴建物や多くの柱穴、土坑などを確認しました。

調査区全体で南北方向と東西方向の複数の溝が見つかり、溝に沿って丸太を割って杭にした杭列が打設されていました。溝は住居地との区画としての役割をもち、杭列はその溝肩部の土留めであったと思われる。また、竪穴建物や多くの土坑や柱穴などがつぐられ、集落として、生活に適した環境づくりがなされたものと思われます。竪穴建物は廃絶後に、弥生時代後期末から古墳時代初頭の土器廃棄場となっており、集落が引続き存続したと思われる。

（田之上 裕子）

## 【参考文献】

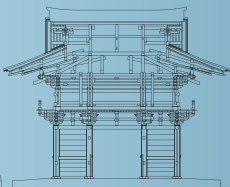
（注1）和歌山県教育委員会・（公財）和歌山県文化財センター（2012）「和歌山県緊急雇用創出事業臨時特例基金事業に係る埋蔵文化財関連資料整理概報―和歌山県内6遺跡の概要報告書―」



写真9 土師器（古墳時代初頭）

左：小型丸底鉢 中：小型丸底壺 右：有稜高坏  
北側の落込み出土





## 護国院（紀三井寺）の 歴史的建造物図面作成業務

護国院（紀三井寺）は、重要文化財や県指定文化財に指定された歴史的建造物を多数所有しています。現在、当センターでは県指定文化財である本堂、開山堂、大師堂、六角堂、三社権現社、書院に加え、北門（未指定）の実測調査と図面作成業務を行っています。今回の業務では、従来通りの手実測を基本としています。本堂については最新技術を活用した計測作業も試んでいます。

本堂は棟高17メートルにもなる建築です。従来の方法で、高所を正確に実測するためには、建物の修理工事実施時の仮設足場のような設備を整える必要がありました。そのため、今回は専門業者の協力を得て、地上固定型の3Dレーザースキャナとドローン（写真1）を併用し、点群データで作成したデータからも寸法の計測を行っています。

レーザーによる点群データ計測では、計測対象物に光を照射し、対象物に当たった光が反射して、センサーに戻ってくるまでの時間差をもとに、距離や位置、形状を検知します。その計測結果から、座標軸（x,y,z）を用い

て構成した無数の点を集合させることで、建物や地形などの表面を3次元空間に表現しています。この計測技術を「LIDAR（光による検知と測距）」と呼び、県内では、これまでも埋蔵文化財の遺構において、同様の技術を利用した調査の事例があります。

本業務では、データとして記録した点群を利用することで、建築意匠や寸法を確認し、手実測が困難な場所での記録として活用しています。

私自身、十数年前の学生時代にLIDAR機器で、とある遺構の地形をレーザー測量したことがあります（写真2）。その頃は、座標データを一点ずつ計測して、地形図を描き起こす作業が中心でした。そこから十年以上を経て機材も進化し、大規模な護国院本堂（写真3）の実測にも活用が可能なほど技術が発展していました。

ただ、現状を実測・記録をしただけでは建築当初に計画された寸法は判然としません。経年によって建物が変形したり、組み合わせの部分に隙間が生じている等の誤差を、実測値から整理し、当初の「計画寸法」を求めなければ、修理や図面作成に応用することが出来ないからです。やはり、このデジタル技術を扱

いこなすためにも、普段の取り組みと同様に、歴史的建造物についての知見を深めていくことが重要だと考えています。（天給 友樹）

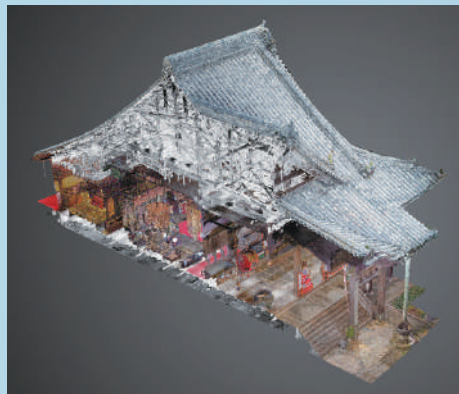


写真1 3Dレーザースキャナとドローンでの計測



写真2 十数年前のレーザー測量

写真3 護国院（紀三井寺）→  
本堂の点群データ：護国院提供

## 文化財建造物課 和歌山の建物とゆかりの人物(6)

テレビ番組で都道府県別の偉人をランキング形式で紹介しており、和歌山県の1位は「南方熊楠」でした。熊楠は、知の巨人と称される博物学者・生物学者・民俗学者で、慶応3年(1867)和歌山市に生まれ、雄小學校(のちの雄湊小)、和歌山中學校(現県立桐蔭高等学校)の一期生です。大学予備門(現東京大学)を中退して米英に留学し、帰国後は田辺に永住しました。熊楠は粘菌の研究でも知られており、昭和4年(1929)、田辺湾に停泊する御召艦「長門」で昭和天皇に進講、キャラメル箱に入った粘菌標本を献上した逸話は有名です。

また、熊楠は明治という時代に自然保護に對する先見の明を持ち、その運動に力強く取り組んでいました。明治39年(1906)、一村一社の方針に基づく神社合祀令に対して、鎮守の森の伐採で生態系が破壊されるなどの理由から反対運動を起こし、田辺湾に浮かぶ「神島」などが守られました。



高原熊野神社本殿 (田辺市中辺路町高原)

高原熊野神社は地元村民の反対と熊楠の運動によって守られた神社の一つです。樹齢80年のクスノキとウラジログシ・カゴノキ等の大木が叢生する境内に建つ本殿(県指定文化財)は、室町時代の一間社春日造の社殿で、現存する世界遺産の熊野参詣道では最古の建物です。平成8・9年度、平成27・28年度に屋根葺替等の修理が行われており、筆者は二度とも担当しました。『縛られた巨人』とも言われた偉人が保存に尽力された鎮守の森に建つ社殿の修理に二度も携わることができたことはまことに感慨深いものがあります。

(寺本 就一)

## きのくに歴史小話

～きのくににれきしこぼなし～

### 埋蔵文化財課

#### 八反田遺跡出土の打製石庖丁

当遺跡は、過去の調査から弥生時代から古墳時代前期にかけての集落として知られています。今回の調査でも、弥生時代中期から古墳時代前期の竪穴建物や柱穴、溝などの遺構が見つかり、弥生土器、石器、土師器などが出土しました。

その中で、イネの穂首刈りに使用したと思われる打製石庖丁が出土しました。近畿では紀ノ川産の緑色片岩の表面を磨いた磨製石庖丁が多いのですが、出土品は打製石器といって石材を割ったまま、刃をつ



打製石庖丁  
(八反田遺跡落込みから出土)

けたものです。写真の□で囲んだ部分に、植物を刈り取った際に付着した光沢のある痕跡があります。イネ類を刈り取ると、細胞内に含まれている珪酸というガラス質によって石器の表面が光って見えるようになります。この石器にもその痕跡が残っていることから、石庖丁と考えられます。近畿では磨製石庖丁が大半で、打製石庖丁は少数しか出土していませんので、打製石庖丁が多く出土する東海地方からの影響を考えると、いいかもしれません。(田之上 裕子)

## 催し物案内

和歌山県内の文化財関係イベント情報（2024年冬～2025年春）

### 和歌山県立紀伊風土記の丘

- 冬期企画展「たがやす」 2025年1月18日（土）～2025年2月24日（月・祝）
- 展示講座③（冬期企画展） 2025年2月9日（日）
- ボランティア研究発表 2025年2月2日（日）
- 館長講座③ 2025年3月1日（土）
- 古墳公開 2025年3月2日（日）

### 和歌山県立博物館

- 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」  
第V期「蘇りの地・熊野—熊野本宮大社・湯峰と熊野川—」  
2025年2月1日（土）～2025年3月9日（日）

### 和歌山市立博物館

- 企画展「歴史を語る道具たち」 2025年1月15日（水）～2025年3月9日（日）

※掲載内容は変更される可能性があります。詳細は各施設へお問い合わせください。



#### 目次

- 1 表紙
- 2 特集「新宮市・八反田遺跡の発掘調査」
- 6 文化財建造物課 短信「護国院（紀三井寺）の歴史的建造物図面作成業務」
- 7 きのくに歴史小話「文化財建造物課 和歌山の建物とゆかりの人物（6）」  
「埋蔵文化財課 八反田遺跡出土の打製石庖丁」
- 8 催し物案内

## 風車107（2024・冬号）

令和6年12月28日

（公財）和歌山県文化財センター

URL <http://www.wabunse.or.jp/>

（公財）和歌山県文化財センター

【事務局】 〒640-8301 和歌山市岩橋1263番地の1  
TEL 073-472-3710 FAX 073-474-2270  
kanri-2@wabunse.or.jp

Instagram始めました。

ユーザーネーム：**wabunse\_official**